

西光寺だより

第二六〇号 令和五年十二月一日発行

■今月のカレンダー■

一人一人がお浄土を飾っていく
一輪一輪の花になる

花屋の店先に並んだ いろんな花を見ていた

ひとそれぞれ好みはあるけど どれもみんなきれいだね

この中で誰が一番だなんて 争うこともしないで
バケツの中誇らしげに しゃんと胸を張っている

それなのに僕ら人間は どうしてこうも比べたがる？

一人一人違うのにその中で 一番になりたがる？

そうさ僕らは 世界に一つだけの花

一人一人違う種を持つ その花を咲かせることだけに

一生懸命になればいい

(「世界に一つだけの花」 槇原敬之作詞・作曲)

『仏説阿弥陀経』に、

極楽浄土には七宝の池あり。(中略)池の中の蓮華は、大きき車輪のごとし。青色には青光、黄色には黄光、赤色には赤光、白色には白光ありて、微妙香潔なり。『註釈版聖典』一二二頁)

と、出てきます。お浄土の池にはさまざまな色の蓮の花が咲き、それぞれの色がその色の光を放ち輝いていると意味です。

この言葉は、私たちに「あなたは、あなたのままで(自分の色に)輝いているか」と問いかけてきます。また、周囲の人を理解しようとするとき、「自分の勝手な思い込みの中で判断して、その人の輝きを邪魔してはいないか」とも問いかけてきます。

すべての人は、それぞれにかけがえのない「いのち」を授かって生まれてきます。それなのに、色々と区別し、「いのち」に優劣や序列を付けてはいないでしょうか。

冒頭の歌詞を読むと、それぞれの花はお互いに序列をつけることなく、自分の色を誇らしく胸を張って咲いているのに、人同士は、お互いを比べ序列を付け、自分の優位を保とうとしながら生きていることに気がきます。

阿弥陀さまは、すべてのいのちを等しく尊い同じいのちと認め、「自分の色に輝いて、精一杯生きておくれ」と願ってくださいます。その願いを「ご本願」といただきます。

阿弥陀さまのご本願を聞き、ご本願を我が願いとして育ち輝いて生きていく。

やがていのち終わるとき、阿弥陀さまのお浄土に迎え取られ、お浄土を莊嚴する一輪の花となるでしょう。

そして一輪の花の輝きは、後に続く人たちを照らすともしびとなるのです。

(法語カレンダー 解説書より)

◆先月の報告◆

①十一月九日(木) 茨木東組聖跡巡拝バスツアーがありました。

ご参加いただいたご門徒の皆さま・お役の皆さま、久しぶりの組の旅行でありまして、兵庫県の西方寺の寺院参拝とカニ料理で、大変楽しかったとのご報告をいただきました。

ご参加の皆さま、ありがとうございました、そしてお疲れ様でした。またの機会がありましたら、どうぞよろしくお願い致します。



②十一月二十三日（木・祝）西光寺本堂にて報恩講法要を厳修致しました。久しぶりの近隣寺院様方と皆さんでお勤めをいたし、あたりまえでなく、特別なお時間を過ごしたことでありました。

また夜の法要におきまして、西光寺前々住職櫻井善晃の三三回忌法要もお勤めし、ご門徒の皆さま・近隣の僧侶がお焼香を致しました。皆さんで偲ばせていただきました。ありがとうございました。



◆十一月の行事◆

・十二月 三十一日（日）

除夜の鐘

午後十一時五〇分〜 西光寺鐘楼

・一月 一日（月）

元旦会法要

午前十時〜 西光寺本堂

1年間本当にありがとうございました。
来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

合掌